



二松学舎大学 父母会報

平成5年5月10日創刊
令和4年3月31日発行
(第116号)

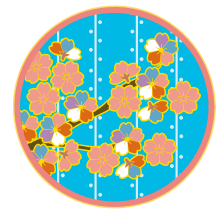
二松学舎大学父母会

(本部・事務局)

東京都千代田区三番町6番地16
二松学舎大学学生支援課

題字は

故 観山貞広常吉先生書



卒業を祝す



父母会長

細谷 文雄

暖かい陽の光が降り注ぎ春の訪れを感じる今日の良き日、巣立つ日を迎えられた皆さま、ご卒業おめでとうございませぬ。また、ご家族並び関係者の皆様にも心よりお慶び申し上げます。今年も新型コロナウイルスの感染拡大が続いていることから、一堂に会する式典とは成りませんが、卒業生の心は一つで繋がっていることでしよう。また、卒業の日まで皆さんを支え励ましてこられたご家族の方も、人生の節目でもある式典を心待ちにされていたことと存じます。父母会役員としても何度もお話し合いをしてきた卒業パーティーの開催も出来ず大変残念でなりません。皆さんのご卒業を祝すご挨拶ではあります、コロナ禍において被害なされた皆様に心からお見舞いを申し上げます。さて、今年度は延期されました東京オリンピック・パラリンピックが開催されスポーツを通じて感動を頂きました。その一方で、コロナ禍の下でも日

本を含め全世界での変動が有りました。国内では、平成から令和の元号になり現総理の下新型コロナウイルスとの闘いを続けております。世界では、米国でも新政権へ移行しました。更には、香港の民主化問題、ヨーロッパ地域での混乱など世界のあちこちで様々な問題がございました。その中で、自由と人権は生命に等しいものと再確認をしたところでございます。

皆さんは学生生活の最後の年を、新型コロナウイルス感染症のパンデミックという厄災のなかで、厳しい制約を受けながら過ごされました。オンライン授業やキャンパス利用の制限等々、学生生活をこのような状況のなか過ごした皆さんには、大きな不安や戸惑いがあったことと思います。これからの社会では、高度情報社会や人工知能等の化学技術の普及が急速に進み、仕事や日常生活も変化していくでしょう。ふまえて、地球環境問題や少子高齢化など様々な難問に立ちまはるかも知れません。しかし、これらが本番です。時代の変化を恐れず二松学舎大学で身につけた建学の精神を思い出し、常に変化しつづける社会を読み、未来を切り拓いていってくださる。

今回、望まぬコロナ禍の経験のなか、皆さんは新しい生活様式や学びに対応し成果を上げ、学位を所得されたことに心から敬意を表すと共に、父母会員の皆さまには深いご理解、ご協力を賜りありがとうございました。その中で、大学の教職員の皆様方、関係各位のたるみなないご尽力に父母会を代表しまして心から感謝を申し上げます。最後にありますが、新型コロナウイルスの感染拡大の収束を願いつつ、父母会及び関係者様の益々のご活躍、ご健勝、そして二松学舎大学の益々のご発展を心よりご祈念申し上げます。

「日々是新」「日々是前進」

理事長 水戸英則



皆さん、ご卒業おめでとうございます。卒業生のご家族やご関係者の皆様にも心からお慶び申し上げます。

先ずは一昨年来からのコロナ禍長期化の中、大学としても、生活支援金の支給や奨学金の拡充、対面とオンライン

ン授業の継続等最大限の努力を行いましたが、皆さんが十分に満足する学生生活を送ることが出来なかったのではないかと、大変遺憾に思っている次第です。

しかしながら、皆さんはこのような厳しい環境の中で、強い意志と忍耐力をもって、学問を継続したことに、改めて深い敬意を示すとともに、今回の経験により、今後遭遇する数々の困難を乗り越えていく力を身に付けて頂い

たと確信しております。今回の厳しい経験を今後の人生に活かしていくよう切望しております。

これからの社会は、デジタル化、カーボンゼロ時代、気候変動等への対応など価値観も含め大きな変革を迎えようとしており、この中で身に付けるべき大切なことを、二点申し上げます。

一点目は、仕事や研究にあたり、変化を受け入れ、日々新たな気持ちで取り組みでいくことです。今日は昨日より一步でも進んだ形、「日々是新」「日々是前進」という気持ちで臨むことが、大変革期にある中での生き方ではないかと思えます。

二点目は、モラル・道徳心を持つ

て、事柄を判断し、行動してほしいという事です。

今回のパンデミックによって浮き彫りになった自由と秩序の問題、格差社会の拡大や気候変動問題への対応などの面で、人間が本来果たすべき道徳心の大切さ、倫理感を持った人材が必要です。ここに本学創立以来の建学の精神に基づいた「創造性と社会的知性、倫理観を持つ人材」として、今後も活躍して欲しいと念願する次第です。

皆さんが二松学舎大学卒業生として、日本や世界でより良い社会を実現するために大いに活躍することを祈念して贈る言葉とします。

卒業生に贈る

学長 江藤茂博



皆さん、おめでとうございませう。これは目標を自ら自分で設定されて、さらに現実的な修正を加えられながら、社会人としての人生をしっかりと歩まれることと思いません。

大学で学んだことと、そして実際

に社会に出てからのことを、二松学舎の第三代会長渋谷栄一は、地図と実地に例えていました。彼は、あらかじめ頭の中で分かった地図情報とは違って、実地には想定外に色々なことがあるものだといっています。そして、地図で想定したとしても、実地を歩くとどうしていいかわからず

に、迷ってしまうこともあるだろうと。しかし大学で学んだ学問を手にするものは、ここでは地図を手にし

たものということになります。そのことによって、大きな視点から物事を見ることができるようになります。

確かに大学で学んだことは、地図であり、大きな目標あるいはそれを構築するための情報です。それに対して、現実の日々では、実際の道を歩く時のように様々な出来事に満ち溢れていることでしょう。

これからの人生、ぜひ生涯をかけて大きな目標と、その下での日々の出来事に対応する小さな目標とを、うまく使い分けながら、長い道のりを着実に前に歩まれていただきたいと思えます。もちろん人によって大

きな目標は様々でしょう。それでも、その大きな目標とは、社会をより良きものにするものでなければなりません。今ならば、公共性やSDGs（持続可能な開発目標）と結びつくものとなるでしょう。また、ちいさな目標とは、まず日々の皆さんの生活を支えるものでなければ、どなたも生きていくことができません。最初はちいさな目標もままならない日々かもしれません。どうか若者らしい大きな目標を失うことなく、しっかりと歩まれていただきたいと思えます。小さく跳ね続け、大きく飛び超えてください。

荒地に踏み出す者たちへ

文学部長 瀧田 浩



現代に大きな影響をあたえている日本の高度経済成長期の文化

を見直してみようと考えて以来、一九七〇年代初めに活動した「はっぴいえんど」というバンドが一番気になり、それ以降歌詞を書いた松本隆を中心に関心を持ち、研究している。

三年のゼミナールでは毎年「ゼミ担当教員の論文を読む」回を設けているのだが、今年のはっぴいえんどについて書いた論文をゼミの学生に読ませることにした。その論文の末尾で私は次のように書いた。

価値相対化というへ新しい荒地を生きのびようとする現代人のための新しい音楽が少しずつ作られてきていた。その音楽は、絶

望と諦観を底に沈めた、仮装された〈朝〉の音楽である。

この二文目、つまり最後の一文を「美しいし、よくわかる」などと特別に高く評価してくれた学生が何人（具体的には四人）もいて、心の底から驚いた。自分としては考えに考えた締め言葉で、多少は自負もあったが、比喩を使ったこの結論部分は、本音では一人も理解しないだろうと考えていたのだ。

その時以来、なぜ理解されたのかを考えている。現代はコロナの影響も濃厚に、高度経済成長期と同様な文化の過渡期にあり、息苦しい現在

に傷つきながらもクールにくぐりぬけようとしている若者たちの感性が私の伝えたいことと共振した、というのが今の私の見立てだ。

コロナ禍に見舞われた二年間、粛々とオンライン大学生活に対応し、「辛くなかったです、大丈夫ですよ」と微笑みながら卒業していく者たちに心から敬意と敬意を表したい。仮装かもしれないその微笑の底には絶望と諦観が潜んでいるにちがいない。

見通しもきかない混沌とした現在、勇気を出して〈新しい荒地〉に踏み出していくみなさんを応援したい。卒業おめでとう。

社会での居場所の確保を目指そう

国際政治経済学部長

佐藤 晋



卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。四年間の研鑽の結

晶として、それぞれ次の新たな道へと歩みを進められることかと思えます。その道は皆さんが主体的に進路選択されたことによってもたらされたものでしょう。そこで、ここでは

選択肢と自由の関係について記してみたいと思います。

一般に英米型の社会では、自分の前に豊富な選択肢が開かれていて、そこから好みに選べれば選べるほど自由だと考えます。一方、ドイツの社会学者であったラルフ・ダーレンドルフは、社会における自由の実現度の指標として「ライフ・チャンス」という概念を提示しています。そして、このライフ・チャンスは、

オプシオン（選択肢）とリガーチャ（帰属・絆）の二つの要素で構成されると言います。つまり、単に選択肢がいくら豊富でも、その選択肢によって自らが帰属する場が生まれないと意味がないというわけです。それでは、その選択した先で、どのようにすれば自らの居場所を確保することができ、安心した帰属感を持つことができるのでしょうか。

その答えは、その組織における周りからの期待にいかに対応することができるかだと思います。つまり新入社員には、新入社員としての役割を果たしてほしいとの周りからの期待があり、それを自分の努力によって

実現していくことで、また新たな期待が生まれ、それが自分の居場所の確保につながっていくのです。

就職活動の時に志望企業に就職できなかつたとしても、実際に入る会社で周りの期待に応じて評価を高めることが、社会における自分の居場所を確保し、良好な職場環境を自らの周りに作ることになるのです。

卒業生の皆さんが、各々の進路先で周囲の期待に応えるべく努力することで、周りから温かく扱われ、自分の中に帰属意識が育てられ、安定した精神状態を得て、人生のチャンスを着実かつ力強く拡大していくことを祈っています。

国文学科・中国文学科・都市文化デザイン学科・教職課程の先生方から
餞の言葉を頂きました。

あなたの人生を
生きなさい

島田泰子

「それはもはや別の物語り、
新しい別の物語りでなければ
ならない。」(大西巨人『神聖喜劇』)

山口直孝

- ① しまった ↓ しめた
- ② 弱った ↓ 良かった
- ③ 困った ↓ 待ってました

(榎本健一「三た主義」) 林謙太郎

사랑해요!

塩田今日子

楽しい人生を!!

増田裕美子

小説のように場面は変わらないうだからぼくらは扉をめくる
(木下龍也『つむじ風、ミミにありますが』) 瀧田浩

また会いましょう

林英一

たまには近況報告でも送ってください。
さい。僕も必ず返事を書きます。

五井信

見ぬ世の人を友とす

(徒然草)

長島弘明

『菜根譚』を読んでみて下さい。
役立つことがあるかもしれません。

小山聡子

自分の力を信じて前進してください。

仙石知子

文学部・教職課程

二松・中文での学びに誇りと

自信をもって、これからの人生

を歩んでいって下さい。

王宝平

パスが来る前に

周りをよく見ておこう

木林野

崇

絶対大丈夫

伊藤晋太郎

魂而有靈

牧角悦子

楽しいと思える人生を

送って下さい。

松本健太郎

大人は困っている人を助けます。

大人は怒っている人の理由を考えます。

大人は悲しんでいる人に寄り添います。

大人は隣の人に席を譲ります。

皆が大人になれば争いは減ります。

岡田哲也

笑門来福

中川桂

学び舎「九段」「柏」経験は

あなたとわたしの人生の刻印

市来津由彦

心置きなく出会い歓談できる日の到来を強く待ち望んでいます。

五月女肇志

好きこそ

ものの上手なれ

神森卓也

みなさんには

未来しかありません

未来へ！！

塩沢平

泰然自若

堀野正人

国際政治経済学部 国際政治経済学科の先生方から 饒の言葉を頂きました。

ご卒業おめでとうございます。
健康に気をつけてご活躍下さい。

高野和基

ユーモア(笑)のセンスを磨いて

楽しく生きましょーう

押野 洋

一步一步、大切に歩んで下さい。
さらなるご活躍を、バより
お祈りしております。

戸辺 玲子

ご卒業

おめでとうございます

岩田 幸(幸)

ご卒業、おめでとうございます。

菊地 宏樹

和風吹萬物物自不曾知
是故有生恵三春貫四時

今井悠人

御卒業おめでとうございます。

門傳 盛香

御卒業おめでとうございます

大変な世の中にも

楽しく生きて下さい

合 六 強

ご卒業おめでとうございます。

心が折れそうに感じた時、誰か人生だよ、と
自分につぶやけ。

山 邊 進

ご卒業おめでとうございます。

自分を信じて努力を続けていれば、
きっと明るく未来が待っています。

バよりご活躍をお祈りいたします。

中山 政義

コロナの2年間。

私たち2人も、たが、
よくがんばりました。

白石 浩

御卒業おめでとうございます

みなさんの新しい人生の門出を

心からお慶び申し上げます

金子 智香

これから来る多事多難
を乗り切ってください

河原 田

御卒業おめでとうございます。

これからの皆さんの御活躍を

たのしみしています。

関 沢 修子

御卒業

おめでとうございます!

中 垣 陽子

がんばって下さい。

でも、がんばらない時は、

休んで下さい。

白石 まりも

御卒業おめでとうございます。
皆様の御健康と御活躍を
心よりお祈りと存じます。

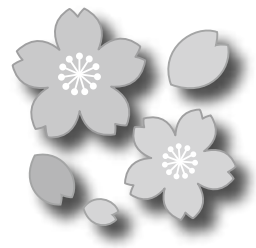
小澤 裕 紀子

御卒業、おめでとうございます。

小具 龍 史

Many congratulations on your
graduation and best wishes
for your new adventure!
Masakot Michikawa-Vancouver
西川 マサコチ 雅子

二〇二二年度 卒業式



二〇二二年三月十六日(水)中野サンプラザホールにおいて、二〇二二年度二松学舎大学学位記授与式(卒業式)が、感染症対策を徹底した上で、挙行されました。晴れ着に身を包んだ卒業生たちが集まり、写真を撮ったり談笑したりする風景が、会場内の至る所で見られました。

午前十一時、開式宣言に始まり、国家斉唱(清聴)、学務局長による学事報告に続いて、文学部卒業生に学士(文学)、国際政治経済学部卒業生に学士(国際政治経済)の学位記・卒業証書が授与されました。各学科それぞれの成績優秀者には、中州賞として賞状と賞品が授与され、その後教育職員免許状が伝達されました。

続いて江藤茂博学長の告示、在校生代表の送辞、卒業生代表の答辞と式は進行し、厳粛な空気のまま卒業式は閉式しました。閉式後は会場内の数箇所に分散し、各学科の教員から学位記を受け取り、式典は終了となりました。

感染症拡大防止の観点から父母会主催の卒業パーティーは中止とし、卒業生の皆さんには記念品を贈らせていただきました。卒業生の皆さん、ぜひ自分の夢を大切に、社会人として活躍されることを祈っております。



祝 卒業



卒業にあたり、新しい人生への希望に満ちた門出に胸ふくらませている学生五名に、四年間学んだ学生生活を振り返り、現在の心境及び感想等を語っていただきました。

『言葉の心臓』



国文学科

柏 沙 織

「あなたにとっての心臓は、どこですか」。これは新潮文庫が中高生向けに行っている、「ワタシの一行大賞」というコンクールの選考委員である角田光代さんの言葉です。彼女は琴線に触れる一行のことを「小説の心臓」と表現し、それを問いかけているのが冒頭の言葉です。私にとってはこの言葉こそが忘れられない一行となりました。小説でなければ一行でもありませんが、四年間の振り返りとして学生生活の中で私の心臓の一部となった先生たちの言葉をここに書きたいと思います。

「文学を学ぶ人間こそ言葉を大切にしなければいけない」とおっしゃいました。何気ない一言が相手に一生癒えない傷をつけたり、反対に、何物にも代えがたい幸せをもたらしたりもします。そのような言葉たちを一つ一つすくい上げることが文学を学ぶということであり、また、その意義だと気づかされた言葉でした。

二年次に受講した比較文学・文化論②の初回の講義では世界地図と事典の「大航海時代」の項目を印刷したプリントが配られました。私はそれらを見て何の変哲もないものだと思います。ですが、この地図は十五世紀から十六世紀のスペイン・

ポルトガルを中心とした地図であり、事典の「発見」という言葉につけられた「」にはスペイン・ポルトガルから見た「発見」だという意味があったのです。

徳盛誠先生はこれらのことから「世界観・観点」という言葉について教えていただきました。私たちが何かを読むとき、それはどのような世界観の中で、どのような観点から使われている言葉なのかを考えなければならぬのです。あらゆるものの世界観・観点に真摯に向き合うことが、他者との共存を可能にすることに繋がるのだと私は思います。

三年次の比較文学・文化演習①ではラフカディオ・ハーン（小泉八雲）について学びました。その中で松枝佳奈先生は比較文学のキーワードとして「越境」という言葉を紹介されました。国・地域を越境し言語や学問を越境する、比較文学を体現する言葉が「越境」であるのだと知りました。そして、外国と母国という関係以外にも、日々の生活の中で自分と異なる他者を排除するのではなく、理解するためには自身が越境し考えることが必要なのだ学びました。

三・四年次の足立元先生のゼミでは「創造と伝統」がテーマでした。

「伝統とは創造されたものであり、創造とは特別な人間だけが行うものではない」。この言葉がとても印象強く、卒業論文に大きな影響を受けました。今となっては伝統になつていくものでも必ず始まりがあり、その始まりをつくったものは必ずしも特別な力をもつ人間ではない、という文章にすればとてもシンプルなことです。しかし、これは社会で生きる中では無意識に忘れられることではないかと思えます。始まりは何であつたのか、自分は何を創造するのかを考えることは生きる意味を考える上で重要なことではないかと思えます。

以上が大学生活の中で得た私の心臓の一部です。私は文学を学ぶ中で、自分にとっての言葉も他者にとつての言葉も大切にすることができ人間でありたいと思うようになりました。この文章を読んでくださっているあなたにとっての心臓は何ですか。いつか打ち明けてもよいと思われるような信頼に足る誠実な人間になれるよう、これからも生きていきたいです。

最後に、いつも支えてくれる家族や友人、四年間様々な面でお世話になりました二松学舎大学関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

『シニアの大学生活』



中国文学科

小林幸枝

四年前、永年続けてきた仕事にピリオドを打ち、社会人入試で二松学舎大学に入学しました。仕事の傍ら細々と勉強してきた韓国語を初歩から専門的に学びたい、日本語と韓国語が共有している漢字文化の源流である中国にまで視野を広げたいと夢をふくらませていました。

しかし、厳しい現実に直面しました。初めて韓国語を学ぶ新入生たちの、スポンジのように習得吸収するスピードに驚嘆しました。一年間であつと言う間に滑らかな発音を身につける若い学友たち。一方、私はハングルの一文字一文字をやつと声に出し、発音の変化や意味を確認する余裕は全くありませんでした。音読を指名されるたびに、惨めな気持ちになりました。読解の速度も遅く、試験では、私が問題文の半分程度を

読んでいる間に、多くの学生たちは解答を終えて退出していききました。この状態が三年生まで続きました。

そんなある日、中国思想の授業で扱った『中庸』の一節に出会いました。「人^{ひと}一たびにして之を能くすれば、己は之を百たびす。」自分に向けられた言葉だと思いました。思えば幼少から物覚えが悪かった私。まして今はシニア。時間をかけて繰り返しやつてゆくしかないと思いました。三年生の夏休みは、午前中の時間を韓国語の音読練習にあてました。成果はすぐには現れませんでした。少しずつ改善していったようですが、秋セメになり、先生から「良くなりませんでした。」とコメントを頂いた時は本当に嬉しかったです。若い学友たちに囲まれた環境でなければ、必死についてゆこうと頑張るこ

ともできなかつたと思います。

入学前の私は韓国の歌といえば、演歌やバラードといった前世紀で時間が止まっていた。授業で話題になるKポップグループのパフォーマンスをユーチューブやCS放送で見ているうちに、歌詞にこめられた深い意味や、コンサートの終盤で語りかける言葉に感動し、時に励まされました。アルバムを購入し、曲を聞きながら韓国語の本を翻訳する作業が至福の時間となりました。

ゼミでは、それぞれ韓国の本の翻訳に取り組みました。授業で各々の翻訳を共有し、コメントを出し合いました。複数の目で同じ作品に向き合う時間は貴重です。文法や発音を確認し、韓国語と日本語の表現の相違を発見しました。自分では思いつかなかつた文脈にびつたりとはまる訳語を教えられ、メンバー二十人分の学びができました。タイプミスや誤訳を一つ一つ丁寧に指摘、説明して下さった塩田先生に心から感謝いたします。

学科の枠を超えて学べた事も大きな収穫です。国文学科の授業で名前しか知らなかつた作家と出会うことができました。戦時中に『司馬遷』を著した武田泰淳です。一年生の時に中国の歴史や地理、文献について

学んだからこそ関心を持ってたと思います。日中戦争で徴兵され、壮絶な戦地生活の中で『史記』によりどこるを感じ、わずかな暇に読みふけたという武田泰淳の著作には、現代に通じる普遍的なメッセージが込められていると感じます。戦時下で戦争遂行という目的一点のためにあらゆるメディアや娯楽、文化活動が統制され、協力させられた状況についても現在と地続きの自分たちの問題として考えさせられます。

後半の二年間、私たちはコロナ禍という予想もしなかつた事態に直面しました。顔を合わせ言葉を交わす当たり前の日常が奪われました。先が見通せない中で、新たにオンライン授業を実施し、学びを保障し、環境を整備し、学生生活をサポートして下さった大学関係職員の方々、先生方に感謝を申し上げます。卒業を迎え、四年間の学びを土台に、新たな一步を自信をもって踏み出してゆきたいと思えます。



『大学生活を追憶する』



都市文化デザイン学科

堤 茜 寧

二松学舎大学での学業を修了し、無事に卒業を迎えることが出来ました。この四年間の大学生活を支えてくださった全ての関係者の皆様に心から感謝申し上げます。学生生活を終えて社会人になるという人生でも大きな節目に際して、自らの四年間を振り返ることで学生生活を締めくくりたいと思います。

私はダンスサークルALIASという非公認サークルに所属し代表を務めていました。入学当初は創設二年目という歴史の浅い団体であり、様々な障害がありながらもほぼ一から組織を作り上げる過程にやりがいを感じたことを今でも鮮明に覚えています。サークル活動の一つとして創縁祭やPOP祭、新入生歓迎会などの様々な学内イベントでステージに立たせて頂き、賞も何度か受賞さ

せていただきました。次回も満足いくステージをと強い信念のもと活動していましたが、私たちを待ち受けていたのは華々しいステージではありませんでした。

新型コロナウイルス感染症によってサークル活動は禁止に、学内イベントはすべて中止になり、私たちの当たり前の日常はすっかり姿を変えてしまいました。それでも私たちはサークル活動を諦めることは出来ず、学外イベントでの出演も視野に入れて今出来ることを全力で取り組んできました。しかし新型コロナウイルス感染症の猛攻は続き、その学外イベントの出演も叶いませんでした。そして大学二年生の十一月以降ステージに立つことは一度も無いまま、サークルを引退し卒業するに至りました。何が悪いわけでもないが

願いの一つも叶わない状況にやり場のない感情と自分の無力さを覚ええました。

しかし、この四年間に後悔や名残惜しさはありません。それはその一瞬一瞬に全力であったからだと考えています。確かに上手くいかないことは幾度もありましたが、その度にサークルメンバーたちと共に頭を悩ませて答えのない問題に全力で向き合ってきました。そうすることで自分たちが納得できる道を切り開いてきたのだと思います。新型コロナウイルス感染症の影響で、努力は必ず報われるとは言えず外的要因によっていとも簡単に打ち碎かれるという機会を目にすることが増え、私もその被害者の一人となりました。しかしその経験から、どうせ叶わないなら最初から努力を放棄するのではなく、自分が納得できる道を歩むためにたとえどんな状況下に置かれようが全力でありたいと思えるようになります。

また、私の大学生活を充実したものにしてくれた友人たちは最も大切な存在でした。一緒に講義を受け、ご飯を食べ、遊びに行き、サークルを運営し、時には個人的な悩みを打ち明けることもありました。大学生活の様々な思い出の一つ一つに必ず

友人たちの姿があります。私の大学生活に彩りをくれた友人たちには感謝の気持ちでいっぱいです。オンライン授業の期間が長く続き、現在もなかなか会うことが出来ない状況が続いていますが、今後もかけがえない友人たちとの縁を大切にしたいと思います。

最後に、四年間を振り返ると講義や研究はもちろん、サークル活動などの他愛もない瞬間からも学びを得ることが出来、充実した年月であったと感じました。これらの沢山の学びを二松学舎大学で得ることが出来たことを大変うれしく感じます。改めて家族、友人、諸先生方、お世話になった全ての関係者の皆様に感謝申し上げます。私はこれからIT業界でシステムエンジニアとして社会に広く貢献していくこととなります。常に進化し続ける分野に身を置くこととなりますが、二松学舎大学で得た数々の財産を忘れずこれからも日々精進して参ります。本当に四年間ありがとうございました。



『ありがとう、二松学舎大学』



国際政治経済学科

小田 紗 英

太陽の光や風の暖かさに春の訪れを感じられるようになり、卒業を迎え、うれしく思います。

四年前、石川県から東京での一人暮らしがスタートしました。不安や期待を膨らませながら、二松学舎大学へ足を踏み入れたあの日の事を、今でも昨日の事のように思い出せます。お友達との出会い、先生方との出会い、ワクワク・ドキドキしたのも思い出されます。

大学の一日〇朝食は、一人暮らしの私にとって、毎日の楽しみであり、食生活で元気に学業に励むことができたことに感謝しています。

大学でのアルバイトは、オープンキャンパスで、受験生や親御さんにキャンパス案内をしたり、学生と話そうコーナーでは、交流や相談を受けたりもしました。先輩方や後輩の

方達と話す良い機会になり、思い出の一ページとなりました。

大学の授業では、情報の授業で、私の作ったパワーポイントが選ばれ、みんなの前で発表しました。その出来事をきっかけに、パワーポイントで資料を作る楽しさを知り、またそれを使いプレゼンテーションを行う事が得意となりました。これからの自分の歩みに少しでも活かしていきたいと思います。

関沢先生のゼミでは、判例について発表をし、憲法の歴史を広く深く学びました。授業以外でも、オンラインで先生やゼミの仲間と親交を深め、楽しいひとときを過ごすことができました。関沢先生には、卒業含め、心温まる言葉をかけていただき、たくさん感謝しています。

大野先生には、一年生の時から二

年間、就職について色々アドバイスをいただき、今の就職につながる、私にとって大きなきっかけとなりました。とても感謝しています。

また、一年・二年生の時、成績優秀者選ばれたことをきっかけに、自分を高める事ができ、成績を維持したいと思うようになりました。努力した結果、三年生の時、特待生に選ばれました。卒業時には、歴史ある中洲賞をいただいたことをうれしく思います。最後までやり遂げたことに、さらに自信が付き、向上心を強く持つようになりました。ここままで頑張つてこられたのも、いつも私を支えてくれた両親のおかげです。感謝しています。

三年生の時に、世界中で誰もが想像していなかった新型コロナウイルスが流行し、今までと一変した不自由な生活を強いられる中で、普段の生活がいかに尊いものであるかという事を考えさせられました。また、予期せぬ環境の変化の中に見舞われ、数々の制限を強いられようとしても、自らにできることを見つけ出し、実行し、就活につなげ、自分が希望する職に就くことができました。

大学で出会った一期一会に感謝。ありがとう。

そして、大学生活そのものが私の宝物。

その出会いが、これから私が直面する様々な課題を解決していくための糧になると思っています。大学で得た学びは、社会や人生を何倍も豊かにしてくれると願っています。また、楽しんで学び続ける中で、様々な形で社会に価値を還元したいと思っています。落ち込んでも、転んでも、何度失敗しても決して諦めない強い気持ちと、自分を信じる心、心の健康を大切に、これからも励んでいきたいと思っています。

最後に、二松学舎大学の先生方、お友達をはじめ、両親を含めた皆様、感謝の花束を送りたいです。本当にお世話になりました。ありがとうございました。

二松学舎大学、ありがとう。



『大学生活を振り返って』



国際経営学科

若菜志保

二松学舎大学に入学してからあつという間に時がたち、ついに卒業を迎えることになりました。信頼できる友人や教授との出会い、ゼミナール、サークル活動などを通して、様々なことを経験した有意義な四年間でした。充実した環境で大学生活を過ごすことができ、感謝しています。そして無事に卒業できることを大変嬉しく思います。

振り返ると、特に大学生活で印象的なのはゼミナールです。私は大学二年生から小具龍史先生のゼミに所属し、新規事業の開発やマーケティングを学びました。主な学習内容として輪読をしたり、実際の企業や商品にマーケティングの考え方を当てはめて、グループディスカッションとプレゼンテーションを行ったりしました。企業の方に新しい事業アイ

デアを提案することも行い、実践的な学習をすることができました。話し合いをしながら新しいことを勉強していくのは私にとっては初めてのことで、最初のうちは思うように言葉が出ないこともありましたが、し毎週のようにディスカッションがある中で自分の考えをまとめて話したり、逆に相手の話に耳を傾けたりする力を身につけられたと思います。

大学二年生では夏休みに自分の中で大きな挑戦をしたことがあります。それは五日間行われる企業のサマリーインターシップに参加したこととです。マーケティングリサーチを行う企業で、ある商品のデータ分析を行い、最終日にはプレゼンテーションを行いました。就職活動についてまだ知識も少ない中、企業のイン

ターンシップに運良く参加することになった私は、他の参加者の方々が自分より遙かに経験のある先輩たちばかりで、余計に緊張と不安でいっぱいでした。しかし乗り切ってみると先輩たちに混ざり発表をして、分析を行ったことが、社会人の方から見ても通用するものだったと評価してもらい、ゼミで培った力を応用できていると感じ、自分の自信につながりました。

大学三年生からは、新型コロナウイルスの影響で講義のほとんどがオンライン授業で行われました。卒業までの二年間がこれまでの大学生活と全く異なるものとなり、大きな衝撃を受けました。ゼミの活動も同様でした。相手の実際の反応を確認しづらい中、講義時間外にも電話やLINEを使ってコミュニケーションをとり、それまでとは違うやり方でのように工夫できるか考えながら活動しました。考えていたものではありませんでしたが、新しい方法に対応していち早く慣れることができましたのは私たちにとってプラスな点もあつたと思います。現在のコロナ禍では、大学生活に期待を寄せていたのに、思うような日々が送れず、複雑な気持ちを抱いている学生がたくさんいると思います。一日でも早く

事態が収束し、普通の大学生活が戻ってくることを祈っています。

この大学ではテスト前に一緒に机に向かつて勉強し、話しあつて、切磋琢磨できるよい友人たちに出会うこともできました。学習面だけではなく、日常生活のなかで落ちこみ、悩む事があつても、くだらない話したり、遊びにいたりして、うちに元気になることができ、私の大きな力になったと思います。

改めて振り返ってみると、大学生の四年間は多くの支えがあり、過ごすことができたと感じています。新社会人として一般企業に就職するにあたり、不安や心配もたくさんありますが、二松学舎大学で学んだ知識や経験を生かし、頑張っていくたいと思います。大学でお世話になった先生方、友人、支援してくださつた大学関係者の方々、応援してくれた家族には感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございます。



●少々しんどい今の時期

新年度となりました。本学も新入生を迎え、在学生も新たな学びのステージに移り、学生の皆さん並びに御父母の皆様方、何となく気持ち引き締まる感じがしているのではないのでしょうか。少しの緊張がしばらく続くこの季節、実は心身共に負荷がかかっていますので、皆様どうぞご自愛ください。

さて、新四年度生の就職活動も三月の広報解禁から早一月、エントリーシートや履歴書の提出も活発になり、新四年度次生の皆さんは緊張の上にも忙しさも重なって、少々しんどくなっている時期かと思えます。選考解禁は六月ですが、すでに多くの企業で早期選考も始まっています。書類が通過する、しない、一次面接が通過する、しない、で一喜一憂する日が続いており、不採用の通知が来るたびに「拒否された」「否定された」との思いが強くなり、落ち込んだりすることも多くなっているかもしれません。

「優秀であれば採用される」は本当ですが、「優秀」だけでは採用されません。そもそも採用選考は、秀でた者を順番に並べて、上から順に合格を出す入学試験とは異なります。企業が採用選考を行うのは、その企業と「マッチする可能性の高い人材」を探すためのもので、企業は営利を追求し、成長し続けなければならぬ組織のため、その企業の特質・特性・文化、社会に

おける貢献を理解し、成長の一助となりうる人材を欲します。そのため企業側も様々な方法と観点で採用選考を行います。優秀でなかったから、人物が劣っていたから不採用になったわけはありません。その企業とマッチする可能性が、他の者と比べて僅かに低かったと考えていただきたいと思います。マッチする企業は必ずあります。何社エントリーしても、内定がなかなか出ない場合は、自己分析が浅いため、業界の選定を誤っている可能性もあります。勤めたいと思う業界・企業を定めることは、就職活動するにあたり、とても重要な要素ですが、自分自身がその業界・企業の仕事に対して適性があるとは限りません。「したい仕事」の企業だけでなく、自分自身をもう一度分析し直し、『したい仕事と関連する業界・企業』にも目を向けてみると、思いがけず自分とマッチする企業が見つかることもあります。

ア
リ
タ
リ
キ
セ
だ

66

就職活動がしんどい時期は、誰しも必ずあります。しかし、ネガティブにならず自分自身を責めても、いい結果は得られません。就活は、ほとんどの学生が初めての体験ですから、上手くいかなくて当たり前のことです。不採用であったのなら、「縁がなかったさあ次。」というくらい前向きな気持ちで取り組んで欲しいと思います。ご父母の皆様も、是非明るくご支援いただきたいと思います。

「学生の心の変化」にも気づくことが多くなりました。十一年くらい前に、おもいやり、という授業の一コマを載せました。学生に順番に質問をしていたのですが、ひとりの学生が何も言わずに立ったままでした。私は答えるよう促しましたが、学生は二、三分立つたままでした。私たちがたまたまその学生へ質問すると、立っていた学生はバツが悪そうに座りました。授業後その学生から、「先生の話を聞いていなかったけど、それを話すと先生に申し訳ないから」という答えが返ってきました。それは、私のために黙って立っていたのだと、それが

私に對しての思いやりだと思っていたことが分かり驚きました。オンライン二年目の今年、対面で授業を受けていた学生が、次々と出席していれば分かる質問をしてきました。授業に出ていないのかと聞くと、オンラインで全部出席していた、と言います。その後で「でも、聞いていませんでした(だから分からない)」と平然と言います。それが私に對しての「思いやり」なのだと思います。思っていることに愕然としました。

学 生 相 談 室

だ よ り 116

カウンセラー 白石まりも

人と会わないことがどのような影響を与えるのかは、今後判明する事だと思いません。しかし、今現在、困っていたり、生きづらさを感じている学生は少なくないと思います。また、今後対面での授業となると、また様々な困りごとが起きてくるであろうことは想像に難くありません。そのようなどきは、学生相談室を思い出してください。電話・メールでも受け付けております。ご家族もどうぞ気軽にご利用ください。

「学生相談室」は本当ですが、「優秀」だけでは採用されませんが、秀でた者を順番に並べて、上から順に合格を出す入学試験とは異なります。企業が採用選考を行うのは、その企業と「マッチする可能性の高い人材」を探すためのもので、企業は営利を追求し、成長し続けなければならぬ組織のため、その企業の特質・特性・文化、社会に

おける貢献を理解し、成長の一助となりうる人材を欲します。そのため企業側も様々な方法と観点で採用選考を行います。優秀でなかったから、人物が劣っていたから不採用になったわけはありません。その企業とマッチする可能性が、他の者と比べて僅かに低かったと考えていただきたいと思います。マッチする企業は必ずあります。何社エントリーしても、内定がなかなか出ない場合は、自己分析が浅いため、業界の選定を誤っている可能性もあります。勤めたいと思う業界・企業を定めることは、就職活動するにあたり、とても重要な要素ですが、自分自身がその業界・企業の仕事に対して適性があるとは限りません。「したい仕事」の企業だけでなく、自分自身をもう一度分析し直し、『したい仕事と関連する業界・企業』にも目を向けてみると、思いがけず自分とマッチする企業が見つかることもあります。

2022年度二松学舎大学日程表

年	月	日	月	日	日	程	
2022年	3	29	~	4	9	ガイダンス期間	
	4	6				入学式	
	4	11				春学期授業開始	
	4	20				前期授業料納入期限	
	4	30				全学休講	
	5	28				父母会定期総会	
	6	18	~	6	19	文化祭(九段)	
	7	18				(海の日): 授業実施	
	7	18	~	8	6	試験期間(定期試験期間を含み18日間)	
	7	29				授業期間終了	
	8	7	~	9	11	夏期休業期間(36日間)	
	8	18	~	8	19	追試験(19日は予備日)	
	9	12				秋学期授業開始	
	9	19				(敬老の日): 授業実施	
9	24				学位記授与式(9月卒業・修了者)		
2022年	10	10				創立記念日/ スポーツの日: 授業実施	
	10	20				後期授業料納入期限	
	10	31				学園祭準備(休講)	
	11	1	~	11	2	学園祭	
	12/17・19・22・23 及び1/10~1/28					試験期間 (定期試験期間を含み18日間・但し 1/12~1/15除く)	
	12	24				全学休講	
	12	25	~	1	9	冬期休業期間(16日間)	
	2023年	1	10				授業再開
		1	14	~	1	15	大学入学共通テスト (設営等を含み12日~14日休講)
		1	21				授業期間終了
2		13	~	2	14	追試験(14日は予備日)	
3		上旬				卒業生・修了者発表	
3		上旬				進級者発表	
3		中旬				学位記授与式(卒業式)	

2021年度 学生褒賞

区分	氏名	主催	大会名	受賞内容
個人	塚本 大	俳句マガジン100年俳句計画	第11回百年俳句賞	優秀賞
			第二回蒼海賞	奨励賞
	田中 大輔	東都大学軟式野球連盟	令和3年度東都大学軟式野球春季リーグ戦	本塁打王
	竹下 結菜	全日本書道教育協会	第105回書教展	文部科学大臣賞
	佐々木健人	東都大学軟式野球連盟	令和3年度東都大学軟式野球春季リーグ戦	敢闘賞
			令和3年度東都大学軟式野球秋季リーグ戦	ベストナイン(外野手)
	小林 加奈	全日本書道教育協会	第105回書教展	中国大使館賞
	木村 愛琴	読売新聞社	第37回読売書法展	入選
		一般社団法人書星会	第69回書星展	書星会賞 師範格取得
	菅野 貴仁	伊藤園新俳句大賞実行委員会	第31回伊藤園お~いお茶 新俳句大賞	佳作特別賞
	金子 星那	佐久市教育委員会	第10回比田井天来小琴顕彰佐久全国臨書展	入選
		全日本書芸文化院	第71回全国書道コンクール	一字賞
		天智聖徳文教財団	近江神宮全国献書大会	金賞
	小川 春希	国立青少年教育振興機構	第11回全国青少年書初め大会	審査員奨励賞
	大山 愛姫	伊藤園新俳句大賞実行委員会	第32回伊藤園お~いお茶 新俳句大賞	佳作特別賞
汪 晨茜	国際教育振興会 他	第62回外国人による日本語弁論大会	決勝大会出場	
団体	書道部	全日本書道教育協会	第105回書教展	団体優秀賞

課外活動団体助成

	団体名	内容
1	書道部	令和3年度二松学舎大学書道部学外展 ポスター制作

二〇二二年度 父母会定期総会について

左記の日程により、二〇二二年度二松学舎大学父母会定期総会を開催いたします。

日時 二〇二二年五月二十八日(土)
場所 二松学舎大学九段キャンパス

一号館

内容 二〇二二年度事業報告並びに
決算

二〇二二年度事業計画並びに 予算

新二年次生、新四年次生の会員の皆様には、二〇二二年度定期総会のご案内と出欠票(委任状)をこの父母会報第一一六号に同封しております。ご確認および五月六日(金)までに出欠票(委任状)をご返信願います。

定期総会資料につきましては、五月中旬に郵送にてお届けします。

二〇二二年度 地区別父母懇談会について

父母会では、大学の協力のもと各地区を訪問し、意見交換を行う「地区別父母懇談会」を実施してきました。二〇二〇年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となりましたが、二〇二一年度はオンラインによる開催が実現しました。

二〇二二年度の日程や開催方法については、新型コロナウイルスの感染拡大状況をみながら、現在調整しております。詳細につきましては、決まり次第、郵送または父母会ホームページにてご案内させていただきます。なお、状況によっては、実施を見合わせざるを得ない場合もございますので、あらかじめご了承ください。

この地区別父母懇談会は、教職員から大学の現況、履修の状況、学生生活の状況、就職活動に関する支援等の説明を行っています。二〇二一年度は事前アンケートで集まった多くの父母の皆様のご質問に、大学側からお答えしました。大学関係者に声を届けられる貴重な場です。ぜひこの機会をご利用ください。

会員の皆様には改めて開催案内をお送りし、出欠の確認をお取りします。

万障お繰り合わせの上、ご参加願います。

編集後記

この春二松学舎を巣立つ四年生の皆さん、そしてご父母の皆様、ご卒業おめでとうございます。心より、お慶び申し上げます。

本号では、三月十六日に中野サンプラザホールで開催された卒業式の写真を、紙面の許す限り掲載しました。ご父母の皆様は、わが子の晴れ姿を見るのを楽しみにしてきたことでしょうか。写真を通じて、少しでも会場の雰囲気を感じていただければ幸いです。

二松学舎大学の門を初めて潜った四年前と、皆さんを取り巻く現況は一変してしまいました。思い描いていた学生生活が送れず、悩み、葛藤した日々もあったことと存じます。傍で支えてきたご父母の皆様のご苦労も、計り知れませんが、様々な思いを抱えながらも、必死に夢を追い、努力を惜しまず、学業や課外活動に打ち込んできた皆さんの門出に、父母会一同心からのエールを贈ります。

春の訪れとともに、みなさんの今後の人生に幸多からんことをお祈り申し上げます。



オリジナルグッズのご案内








二松学舎サービスでは、二松学舎に所縁のある方や公式キャラクター・ねこ松のグッズやお菓子等を販売しています。他にも、スクールカラーのネクタイやお酒もごぞいます。オンラインショップでご購入できますので、是非、一度ご覧ください。

<https://nishogakusha.shop-pro.jp/>

《特別クーポン 期間中何度でも5% OFF!》

オンラインショップご注文時に、クーポンコード【niso2022】をご入力いただくと、商品合計金額より5% OFFとなります。2022年3月10日～2022年4月25日の期間限定です。是非ご利用ください。 ※クーポンは税込1,500円以上(送料除く)のご注文にご利用いただけます。